

研究テーマ	<p>【IV 作品や表現への見方や感じ方の広がり，深まり】 一人一人の児童が，ものの見方を深め，自分なりの表現方法を見つけて楽しい造形活動を広げていくための工夫 ～小学校6年「身近な風景画の構図をとらえる学習」の実践を通して～</p>
-------	---

大洗町立大洗小学校 黒澤 靖志

1 研究テーマについて

6年生の1クラスを対象に，事前に絵画に関するアンケートを実施した。アンケートの内容は「絵を描くことが好きですか」「彩色が得意ですか」「いろいろな色をつくるのが好きですか」「風景を描くことが好きですか」などである。「絵を描くことが好きでない」と答えた児童は全体の10%で，理由は「得意ではないから」や「難しいから」が多かった。また「彩色が得意ですか」においても約60%の児童が「苦手です」と答えている。さらには「風景画を描くことが好きですか」においても，56%の児童が「好きではない」と答えている。理由になると，「思うように描けない」や「面倒だから」や「下手だから」などが圧倒的に多かった。これらのことから，児童は絵を描くことに対し，「上手に描きたい」という気持ちを強くもっていることがわかる。しかし，「上手に描けない」や「思うように描けない」など製作過程でのつまずきから製作への意欲や関心が徐々に薄れていくのではないかと考えられる。

そこで，このような児童の実態をきちんと把握し，製作過程での児童との関わりを大切にしたい。そして，題材に対する児童の思いを大切にするとともに，ものの見方や感じ方をていねいに押さえながら，自分が大切に思う風景の美しさを感じ，自分なりの表現方法で楽しい造形活動ができるようにするため，本研究テーマを設定した。

2 実践例

(1) 題材名 表し方をくふうして

(2) 題材の目標

さまざまな視点から風景を観察し，視点を変えることによる表現の面白さに気付かせるとともに，奥行きや形などの特徴をとらえ，表し方を工夫して表現することができる。

(3) 題材について

本学年の児童は，図画工作が好きな児童が多い(全体の90%が好きと答えている)。しかし工作には進んで取り組むが，絵画では個人差があり，得意な児童と苦手な児童とに分かれる。絵画が苦手な児童の理由として，「どのように描いていいかわからないから」「上手に描けないから」などが多かった。そこで，このような児童の実態を正確に把握し，児童の思いを大切にするとともに，ものの見方や感じ方を押さえながら，自分が大切に思う風景の美しさを感じ，楽しい造形活動ができるようにしていきたい。

6年生における今回の題材は「表し方をくふうして」である。この題材では，視点や表現方法を工夫して，大切に思う風景を絵に表すことをねらいとしている。新指導要領5，6年の共通事項のアでは「自分の感覚や活動を通して，形や色，動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること」としている。大洗小学校は平成24年4月に開校した新校舎は近代的なつくりで，校舎全体が楕円形をしている。直線だけの箱形ではなく曲線が多いので，視点を変えながら形や奥行きを表現する題材としては大変おもしろい構造物である。

まず，作業に入る前に，校舎の中や外を自由に歩き，いろいろな場所から風景をじっくり観察させる。その際，ただ見るだけでなく枠で風景を切り取り，いろいろな視点から対象を観察し，大切に思う風景を決めさせたい。そして必要に応じてデジタルカメラでその風景を撮影し，その画像を見ながら視点を変えることによる表現の面白さに気付かせたい。また，デジタルカメラで撮影した風景を見ながら，造形的な特徴である形や奥行きなどにも気付かせたい。学習においては，教師主導による技能面の指導になりがちであるが，学習過程での鑑賞を通し，児童の気付きや，自分が選んだ風景に対する思いを大切にしながら授業を進めていきたい。

(4) 評価規準

図工への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の生活や身の回りから、自分の表現したい風景を見つけ、絵に表すことに取り組もうとしている。	表したいことの主題にあった視点を考えたり、感じた季節感が表れるように形や色を考えたりしている。	表したいことが伝わるように、材料や用具の特徴を生かしたり、表現に適した方法を選んだりして表し方を工夫しながら表現している。	感じ方や表し方について友人と話し合い、作品の表現を多様な見方とらえている。

(5) 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習内容・活動	学習評価規準・【評価方法】
第1次 ① ②	視点を变えて撮影した校舎内・外の写真を見ながら、表現のおもしろさや感想を述べ合う。	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見ながら、表現の面白さや感想を積極的に述べようとしている。【関】【観察】 写真を見ながら、造形的な特徴に気付くことができる。【鑑】【観察】
第2次 ③ ⑦	<p>枠を使い様々な視点から風景を観察し、お気に入りの場所を見つける。</p> <p>構図を決め鉛筆で下絵を描く。（本時⑤の1）</p> <p>3原色による色づくりをする。</p> <p>彩色する</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの視点から見ると奥行きがでるか、いろいろな角度から風景を観察している。【関】【観察】 枠を使いながら、風景を切り取り、奥行きや形などをとらえて表し方を構想することができる。【想】【作品】 奥行きや形などの特徴をとらえ、表し方を工夫して表現することができる。【技】【作品】 3原色からいろいろな色をつくり出し材料や用具の特徴を生かして表し方を工夫することができる。【技】【作品】
第3次	できた作品を相互鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> 友人と作品について話し合い、感じ方や表現に共感したり、自分と対比したりして、多様な見方ができる。【鑑】【観察・ワークシート】

(6) 本時について

① 目標

いろいろな視点から風景を観察し、奥行きや形などの特徴をとらえ、表現の仕方を構想することができる。

② 準備・資料

画用紙、絵の具、構図を取る枠、参考作品、デジカメで撮影した風景写真、模造紙、付箋紙

③ 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 発問
<p>1 前回までの学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラで撮影した風景や参考作品を見返し、視点を变えることによる表現の面白さに気付かせる。 	<p>前回、デジタルカメラで撮影した風景や、さまざまな風景画を見てきました。風景も視点を变えると日頃見ている風景が違って見えることに気付くことができましたね。さあ、風景をいろいろな視点から見て、どんな構成を考えましたか。</p>
<p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	

いろいろな視点から風景を観察しよう。そして、自分のお気に入りの場所を探し、くふうして描こう。

3 描きたい場所を見つけいろいろな視点から風景を観察する。

- ・外から見た校舎
- ・校舎内の階段付近
- ・教室の中の様子
- ・教室から見た外の風景

4 下絵をかき始める。

- ・縦構図
- ・横構図

5 製作途中の作品を鑑賞する。

- ・どの視点から描いているか。
- ・奥行きの特徴をつかんでいるか。
- ・形などの特徴をつかんでいるか。

6 友人の作品から学んだことを自分の製作に取り入れる。

7 本時の活動を振り返り、次時の学習について知る。

○本時の学習は、いろいろな視点から風景をとらえ、描くことを確認しておく。

○**風景画の参考作品を鑑賞しながら、奥行きが感じ取れる表現について気付かせるようにする。**

風景を観察するとき、必ず、構図を取る枠を使いいろいろな場所で観察しましょう。そして、自分の一番お気に入りの場所を探るようにしましょう。

○枠を使っていろいろな視点から風景を観察し、枠で風景を切り取りながら、一番描きたい場所を決めさせるようにする。

○自分が一番表現したい部分を見つけるため、じっくり時間をかけ場所を見つけるよう助言する。

○**なかなか作業が進まない児童には、デジタルカメラで撮影した風景をみせ、身近な場所でも見方を変えるとおもしろい表現になることに気付くよう助言する。**

○手前にあるものは大きく、遠くのもの小さくするなど、奥行きを出すための表現の仕方について助言する。

○細部にこだわらず、風景の大まかな特徴をとらえて描くよう助言する。

グループごとに作品を鑑賞しましょう。表現の中で工夫しているところや、おもしろい所、そして上手だと思うところを話し合しましょう。

○**製作途中の鑑賞で、自分の思いにあった友人の感想や意見、さらには工夫点を取り入れ、表現する力を高めていけるよう助言する。**

想 いろいろな視点から見た風景を、奥行きや形に注目しながら表現の仕方を構想することができる。

○**製作途中の作品を見せ合い、それぞれの作品の工夫したところや良いところに着目するよう助言する。**

○気付いたことを付箋に書き、模造紙にまとめることで他の人の意見にも気付かせるようにする。

○自分の思いにあった活動ができたか、課題に沿った表現の工夫ができたかについて発表させることで次時の学習につなげるよう配慮する。

※ テーマとの関連：ゴシック体太字表記

3 成果と課題

【成果】

- 導入の段階では、さまざまな視点からデジタルカメラで撮影した風景や参考となる風景画を数多く鑑賞させた。この鑑賞を通して、児童は奥行きの出し方など、表現の仕方に目を向けることができた。また、視点を変えて風景を見ることで日頃見慣れている風景も違って見えることに気付かせることができた。

鑑賞では、児童から作品を見た感想を自由に話してもらったが、友人の意見を聞いてさらに奥行きを出す表現技法にはいろいろな方法があることに気付くことができた。

- 風景のデッサンでは、構図をとる枠を使うことで、さまざまな視点からものを見ることができた。デッサンにおいても、枠に収まった風景を根気強く鉛筆で描くことにより描く力がついてきた。また、校舎外の風景や校舎内の風景、そして教室内の風景など、様々な場所の中から児童が一番描きたい場所を選択できるようにしたことで意欲的に創作活動ができた。
- 彩色の場面では、事前に3原色を使った色づくりをすることで、さらに違う色をつくろうという意欲付けになった。特に茶色や黒系の色づくりに苦勞していたが、慣れてくるともう一度チャレンジして作り直す姿も見られた。すでにある絵の具の色を使うのではなく、色をつくり出していく過程で児童の驚く姿や発見が随所に見られた。また、併せて筆の使い方を指導することで、筆のタッチの違いによって表現にも違いがでてくることに気付かせることができた。奥行きを出す技法では、遠くのを薄く、近くのを濃く描くなど、工夫する児童も多く見られた。
- 作品鑑賞では、作品を描いた児童から、なぜその場所で描いたのか。あるいはなぜその場所が美しいと思ったのかなど、奥行きや遠近感、色の対比から感想や意見を述べてもらった。作者から感想を聞くことで、見る側の児童は作者の気持ちや描きたかった理由について知ることができた。また、何気ない風景でも視点を変えることにより、美しく感じる場所や面白いと感じる場所がたくさんあることにも気付くことができた。

< 導入時における作品鑑賞 >



< 視点を変えて撮影した風景の写真 >



いろいろな視点からデジカメで撮影した風景

<児童の製作の様子>



いろいろな視点から風景を観察

下絵づくり及び彩色

<児童が製作した作品>



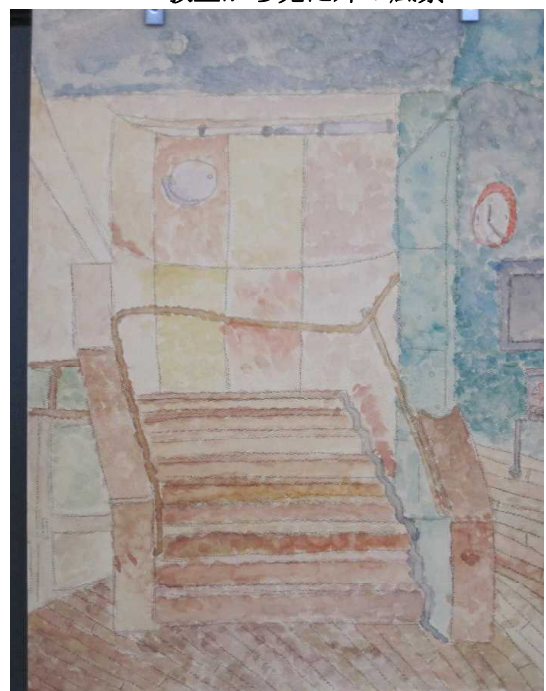
教室の中の様子



教室から見た外の風景



昇降口から見た校舎



昇降口付近の階段

【課題】

今回の題材では、ものの見方や表現方法を深め、自分なりの表現方法を見つけて、さまざまな視点から対象を観察し絵に表すというねらいであったが、対象を捉えることがなかなかできず、下絵の段階でかなり時間を取ってしまった児童が数名いた。日頃から描く時間をとってこなかったことが理由として挙げられるが、今回は校舎が複雑な形をしており、曲線がかなり多かったことも書きづらい要因であったように思われる。今後は、朝の自習の時間を使ってクロッキーやスケッチの時間を十分に確保しながら指導していく必要があると思う。

また彩色では、色づくりの時間を1時間確保し、混色しながら様々な色をつくったが、3原色でいろいろな色をつくった児童はごくわずかだった。もう少し時間をとってじっくり色づくりをしたかった。混色して色をつくる時、ある程度基礎的な知識は必要だと感じる。緑は青と黄、紫は青と赤、オレンジは赤と黄など、知識があれば自分で進んでつくれるが、知識がないために何をどうすればよいかわからない児童が少数いた。中学年で、もっと混色する作業を取り入れ、色づくりの楽しさを伝えていく必要がある。

参考文献 「小学校学習指導要領解説 図工編」 文部科学省 平成20年8月
小学校新学習指導要領の授業
図画工作科実践事例集 「編・著」新野 貴則 小学館 平成22年3月22日